



写真右から、金井会長、
島田副会長、吉原前会長

第10回理事会・総会 設立10周年記念式典・記念講演会

埼玉県摂食・嚥下研究会第10回理事会及び総会が、平成26年7月27日(日)午前10時30分より彩の国すこやかプラザ2階研修室で行われた。

総会では議長に中里理事が、副議長に出浦理事が選出され、金井会長の挨拶の後、平成25年度の事業報告及び決算、平成26年度の事業計画及び予算、役員を選任の計5議案が審議され、すべて提示し

た原案どおり可決された。役員の出選の件では埼玉県医師会の廣澤信作常任理事が理事に、大宮医師会の三谷雅人理事が理事に承認された。

続いて13時から、埼玉県摂食嚥下研究会設立10周年記念式典・記念講演会が開催された。記念式典では、開会を島田副会長、続いて挨拶を金井会長が行った。来賓で埼玉県知事上田清司様、石川稔様から、御祝辞をいただいた。設立10周年を記念して、これ

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

—高齢化時代のセーフティ・ライフを目指して—

vol.26

発行日
平成26年10月25日

発行者
埼玉県摂食・嚥下研究会

事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

まで埼玉県摂食・嚥下研究会に貢献、功績をいただいた、元埼玉県医師会・会長吉原忠男先生、元埼玉県歯科医師会・会長蓮見健壽先生、元埼玉県歯科医師会常務理事岡宏先生の3名に感謝状並びに記念品の授与が行われた。また、10年間の記録として「埼玉県摂食・嚥下研究会 10周年のあゆみ」を

スライドで上映した。続いて、記念講演会が開催され、105名が参加して大変熱心に受講した。
参加職種は、医師、薬剤師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、栄養士、ケアマネ、介護職、その他であった。

設立10周年記念講演

「摂食嚥下練習の考え方」

講師 藤田保健衛生大学医学部
リハビリテーション医学I講座主任教授

才藤 栄一先生



今回の埼玉県摂食嚥下研究会設立10周年記念講演は、当会設立の際に基調講演をしていた藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学I講座主任教授である才藤栄一先生にお願いした。今回の演題は、「摂食嚥下練習の考

え方」で、才藤先生の科では2008年から嚥下をCTで診るようになり嚥下CTの登場で嚥下リハが加速した。

才藤栄一先生によれば、日本摂食嚥下リハビリテーション学会も20周年を迎え、やっと成人したところである。世界では摂食嚥下リハは80年代前半に、日本では90年代に、嚥下造影の登場とともに嚥下リハが始まった。これを歩行訓練と比較すると、歩行は古典課題で、歩行分析、歩行訓練があるのに対して、嚥下は新規課題で嚥下造影、嚥下訓練がある。そして、造影検査はその部分の構造や手技が分かって、対処法はつきりしていれば安全に行えることをリハ科での200症例の実績から解説された。

嚥下はエクササイズの対象で、嚥下運動は反射(反応)だが、変化させることが出来、面白い例としてビールの一気飲みの名人は食道入口部を持続的に開大させてビールを流し込む。またサーベルを喉元に突き刺す大道芸もレントゲン検査してみると食道入口部開大したままでいられたことがわかる。新規的課題であった嚥下リハは今や重要な課題となりリハ科診療の大きな部分を占める。

(2面へ続く)

リハ医学では4つの対応がある。それは、①活動関連医療の包括的管理、②活動機能構造連関(原理)、③支援システム(周りを変える)、④治療的学習である。

活動に依存して機能が変わる。すなわち実際に使う(例えば、強い筋収縮)ことで機能が増え(筋力増加)たり構造が増える(筋肥大)。使えば増えるという現象をリハビリマジックという。

治療的学習はいろいろな学習活動を治療に持ち込むことであり、それは間接練習であったり直接練習であったりするが、練習の中核となる。運動学習の主たる変数は7つあり、転移性、動機付け、行動変化(フィードバック・量・頻度)・難易度、保持/応用である。転移性とは、どうすれば変わり、どうすれば効果が出るかということ、似ているものに効果が出る。嚥下運動がどう似ているかを判断するには課題の同定を行う。その際大切な点として、1つ目はスキルの分類、2つ目は一般運動プログラム、3つ目が活動の冗長性で



ある。嚥下様式には2つあり、液体嚥下と咀嚼嚥下に分けられる。

動機付け(内的)について説明すると、嚥下は本能で強く、歩行は本能ではなく、それほど強くない(欲求階段説)。

行動変化をもたらすものはフィードバックと量(頻度)と難易度の3つであり、エクササイズはやる量に比例する。難易度の高いものはできるようにならない(難易度パラドクス)。難易度パラドクス克服のために2つの方法がある。

促進法とは、一時的に能力を上げることである。Tactile thermal stimulation(口蓋弓を凍らせた綿棒で刺激)によって

R S S Tが大幅に短縮した。

もう一つは課題調整法で、易しい課題をいくつか用意して、課題を乗り越えながら目標課題を達成する。

嚥下造影によって見えないものが見えるようになったが、その本質的な意味合いを突き詰めると実際の治療に役立つかどうかにかき

あたる。治療に役立つものをみることを治療指向性という。活動計画P D C AサイクルのうちPlanに相当する。二つあって一つはKRでのギリギリさ、もう一つはKPでのコツとなる。例えばVFの意味でみると、KR・喉頭侵入や誤嚥、KP・体位と手技の効果である。

ギリギリさの発見と追求…例えばVFで水溶液では誤嚥し、ペーストでは誤嚥しない場合は、体幹後傾などを追加しながら水溶液を誤嚥のないようにギリギリさを追求できる。そして、やっとできる課題を繰り返すことのできるようになる。慢性期の喉頭挙上手術例でも数ヶ月の訓練で飲み込みができるようになった。

コツの発見と追求…嚥下しやすい体位と食性・食形態をCTやVFを使いながら観察し、コツをつかむ訓練をしていく。

《まとめ》

摂食嚥下リハビリテーションの歴史は比較的新しい。嚥下訓練の中核に運動学習がある。嚥下は嚥下を繰り返すことで最もよく練習できる。嚥下は改変/分解可能な課題である。摂食嚥下への動機付けは高い。難易度パラドクスを乗り越える工夫が大切になる。嚥下

造影は、P D C Aサイクルの2つのチェックとなる。ギリギリさとコツの発見が練習理解に役立つ。ギリギリさを創るには道具として、食物/椅子などが有用である。嚥下CTはコツを発見する新手法となりつつある。

このような内容の濃い講演で、できれば再度視聴したいと思う。

才藤栄一先生におかれましては、超多忙の中快く埼玉県摂食嚥下研究会設立10周年記念講演をお引き受け下さったことに会員一同深く感謝している。

【編集後記】

おかげさまで埼玉県摂食嚥下研究会も10周年を迎えることになりました。これもひとえにこの会を支えていただいた会員の方々、会長や役員の先生、事務の人達のおかげだと思えます。

この会が必要とされるのは摂食嚥下でお困りの方に対し、適切な対応を示し、新しい情報を提供することだと思います。

これからも皆様と一緒にやっていける会にしたいと思っていますので、ご支援の程よろしくお願ひします。感謝

埼玉県摂食嚥下研究会専務理事
大渡 廣信

biotène

乾きやすいお口をトラブルから守るために

バイオティーン マウスウォッシュ

バイオティーン オーラルバランス

Pepti-Sal おソフト **ペプチサル**

2014年 冬 発売予定

ジェントルトゥースペースト

お口をやさしくケア

発泡洗浄剤(ラウリル硫酸ナトリウム)、アルコール、パラベン無配合

お口にやさしい肌刺激性の低減が特徴

株式会社 ティーアンドゲー | 〒103-0012 東京都中央区本町4-10-7 | TEL: 03-5693-0933 | FAX: 03-5640-0932 | 0120-556-350 | www.biotene-lt.co.jp

平成26年度 埼玉県摂食・嚥下研究会 第10回 総会報告

◆第1号議案 平成25年度事業報告の承認に関する件

1. 会員数：正会員 266名
賛助会員 32団体 (60口)
2. 理事会及び総会
平成25年7月28日(日) 彩の国すこやかプラザ

3. 講演会及び症例検討会

(1) 第18回 講演会

日 時：平成25年7月28日(日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：272名
(正会員69名・賛助会員枠78名・非会員125名)
講演Ⅰ：早期経口摂取開始の成果とアプローチの実際
講 師：東名厚木病院摂食嚥下療法部長 看護師・
口から食べる幸せを守る会代表 小山珠美
講演Ⅱ：要介護高齢者が口から食べ続けられるための
食事介助技術と地域連携
講 師：東名厚木病院摂食嚥下療法部主任・看護師
芳村直美

(2) 第8回 症例検討会

日 時：平成25年11月24日(日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：106名
(正会員50名・賛助会員枠9名・非会員47名)
講 演：食べることを支える、施設での取り組み
講 師：高齢者福祉施設やしお苑栄養課主任・管理
栄養士 河口真里

(3) 第19回 講演会

日 時：平成26年2月23日(日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：116名
(正会員50名・賛助会員枠42名・非会員28名)
講演Ⅰ：がん治療における栄養管理あれこれ
講 師：埼玉医科大学国際医療センター消化器外科
准教授 佐藤 弘
講演Ⅱ：頭頸部癌治療における嚥下障害の実際
講 師：埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍
科准教授 中平光彦

4. その他

1) 監査

日時：平成25年5月16日(木)
場所：埼玉県医師会他

(2) 作業委員会

日時：平成25年5月9日(木)
場所：彩の国すこやかプラザ

日時：平成25年8月22日(木)

場所：彩の国すこやかプラザ

日時：平成25年10月3日(木)

場所：彩の国すこやかプラザ

日時：平成26年2月6日(木)

場所：彩の国すこやかプラザ

5 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの作成・更新を実施した。

- (1) 埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行
(年3回：22号・23号・24号)
- (2) ホームページの作成・更新
(<http://www.ssek.net/>)

◆第2号議案 平成25年度収支決算の承認に関する件

【提案理由】平成25年度決算の承認に関する件について、会則第11条第2号の規定に基づき提案いたします。

平成24年度摂食・嚥下研究会収支決算書

(収入の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
入会金収入	30,000	24,000	6,000
会費収入	1,410,000	1,398,000	12,000
事業収入	780,000	600,000	180,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	158	△158
当年度収入合計	2,220,000	2,022,158	197,842
繰越金	905,300	905,300	0
収入合計	3,125,300	2,927,458	197,842

(支出の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
事業費	3,025,300	2,105,008	920,292
1.理事会・総会費	(321,600)	(330,480)	(△8,880)
2.講演会費	(1,950,000)	(1,426,689)	(523,311)
3.広報費	(753,700)	(347,839)	(405,861)
予備費	100,000	0	100,000
当年度支出合計	3,125,300	2,105,008	1,020,292
次期繰越収支差額		822,450	

◆第3号議案 平成26年度事業計画の承認に関する件

【提案理由】平成26年度事業計画の承認に関する件について、会則第11条第2号の規定に基づき、提案いたします。

本格的な高齢社会を迎え、一生元気で、健康な生活を送ることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児(者)が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。

埼玉県摂食・嚥下研究会は、摂食・嚥下障害の諸問題への対応や啓発指導、リハビリテーションなど目的を達成するために以下のとおり事業を行います。

1. 講演会及び症例検討会の開催

(1) 第10回設立記念式典及び記念講演会

日 時：平成26年7月27日(日) 13時～15時30分
場 所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール

講演：摂食嚥下練習の考え方
 講師：藤田保健衛生大学副学長・リハビリテーション医学講座教授 才藤栄一

(2) 第9回症例検討会
 日時：平成26年11月30日(日) 13時～16時
 場所：彩の国すこやかプラザ
 演題・講師：選定中

(3) 第21回講演会
 日時：平成27年2月8日(日) 時間未定
 場所：彩の国すこやかプラザ
 演題・講師：選定中

2. 摂食・嚥下研究会だより発行、ホームページの作成・更新。埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年3回)。ホームページの更新 (<http://www.ssek.net/>)
 3. 摂食・嚥下研究会メーリングリストの作成
 4. その他
- 必要に応じて作業委員会、摂食・嚥下研究会だより編集委員会を開催する。

◆第4号議案 平成26年度収支予算の承認に関する件

【提案理由】平成26年度収支予算の承認について、会則第11条第2号の規定に基づき提案いたします。

平成25年度摂食・嚥下研究会収支予算書

(収入の部)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
入会金収入	30,000	30,000	0
会費収入	1,410,000	1,410,000	0
事業収入	780,000	780,000	0
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
当年度収入合計	2,220,000	2,220,000	0
繰越金	822,450	905,300	△82,850
収入合計	3,042,450	3,125,300	△82,850

(支出の部)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
事業費	2,942,450	3,025,300	△82,850
1.理事会・総会費	(321,600)	(321,600)	(0)
2.講演会費	(1,620,000)	(1,950,000)	(△330,000)
3.広報費	(1,000,850)	(753,700)	(247,150)
予備費	100,000	100,000	0
当年度支出合計	3,042,450	3,125,300	△82,850

◆第5号議案 役員を選任に関する件

【提案理由】役員を選任に関する件について、会則第11条第3号の規定に基づき、追加議案として提案いたします。なお、選任する役員は下記の2名です。

- 理事
 廣澤 信作 (埼玉県医師会)
 理事
 三谷 雅人 (埼玉県医師会)

埼玉県摂食・嚥下研究会役員名簿

(平成26年7月27日現在)

役職	氏名	役職
会長	金井 忠男	埼玉県医師会長
副会長	島田 篤	埼玉県歯科医師会長
副会長	内山 宣世	埼玉県薬剤師会長
副会長	三浦 宜彦	埼玉県立大学長
専務理事	大渡 廣信	埼玉県歯科医師会 地域保健部部長
理事 (総務・会計)	深井 穂博	埼玉県歯科医師会 常務理事・地域保健部長
理事 (広報)	藤野 悦男	埼玉県歯科医師会 地域保健部副部長
理事	湯澤 俊	埼玉県医師会副会長
理事	廣澤 信作	埼玉県医師会常任理事
理事	小川 郁男	坂戸鶴ヶ島医師会長
理事	三谷 雅人	大宮医師会理事
理事	大前由紀雄	埼玉県耳鼻咽喉科医会会員
理事	棚橋 紀夫	埼玉医科大学神経内科教授
理事	奥村 元彦	埼玉県歯科医師会会員
理事	中里 義博	埼玉県歯科医師会会員
理事	出浦 恵子	埼玉県歯科医師会 地域保健部員
理事	安井 利一	明海大学学長
理事	清水 良昭	明海大学歯学部社会健康科学講座障害者歯科准教授
理事	高久 悟	埼玉県立大学健康開発科教授
理事	内田 淳	嵐山郷医療部医幹
理事	鯉渕 肇	埼玉県薬剤師会副会長
理事	膳亀 昭三	埼玉県薬剤師会常務理事
理事	熊木 孝子	埼玉県看護協会会長
理事	中島 悦子	埼玉県訪問看護ステーション連絡協議会長
理事	丸山 恵子	埼玉県歯科衛生士会長
理事	野呂 牧人	埼玉県介護支援専門員協会 理事長
理事	清水 充子	埼玉県言語聴覚士会長
理事	平野 孝則	埼玉県栄養士会長
理事	望月 久	埼玉県理学療法士会副会長
理事	大橋 幸子	作業療法士階理事・事務局長
監事	丸木 雄一	埼玉県内科医会理事
監事	岩上 榮吉	埼玉県歯科医師会専務理事

第9回症例検討会

日時：平成26年 **11月30日** (日) 13:00~16:00
場所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール

演題Ⅰ：経口摂取の導入を目指した短期入院の試み

講師：大生病院 リハビリテーション科言語聴覚士 藤井 勇次郎先生
コメント：在宅と病院との連携を目指して一地域包括ケアシステムの展望—
大生水野クリニック 院長 大前 由紀雄

演題Ⅱ：特別支援学校から見えてくるもの —食事支援の対応と課題—

講師：埼玉県立小児医療センター 保健発達部言語聴覚士 吉浦 詠子先生
コメント：埼玉県社会福祉事業団埼玉県立嵐山郷 医療部医幹 内田 淳

演題Ⅲ：① 嚥下圧（口腔内圧）の低下している方の 訓練について

講師：水戸医療センター言語聴覚士 磯野 敦先生
コメント：埼玉県摂食嚥下研究会専務理事 大渡 廣信

② 多職種との地域（在宅）連携について

講師：水戸医療センター言語聴覚士 磯野 敦先生
コメント：「地域包括ケアシステム」を活用した連携
埼玉県摂食嚥下研究会理事 中里 義博

質疑応答

■定員：250名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。
※改めて参加証はお送りいたしません。

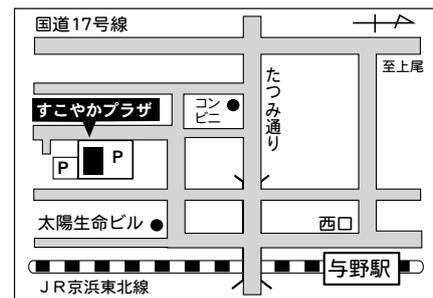
■参加費：会員/ 無料

非会員/ 2,000円 (資料作成代等)

■申込締切日：11月21日 (金)

主催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員) ※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職種	
氏名		電話	
住所 (勤務先)	〒 -	FAX	

申込書 FAX先 **048-829-2376**